

中国科学史国際会議・一九八七京都シンポジウム

赤堀 昭

中国科学史の研究は第二次大戦後、北京の自然科学史研究所、ケンブリッジのニードム研究所、京都の人文科学研究所を中心に、過去の史観を一変させるほどの成果を挙げている。中国科学史国際会議はこのような気運に乗じて一九六八年に香港で開催された。その後しばらく中断していたが、八二年に第二回会議がルーヴェンで開かれてから、一年おきに第三回（北京、八四年）、第四回（シドニー、八六年）会議が開かれ、本年はサンディエゴで第五回が開かれることになっている。八七年は中間の年に当るが、藪内清先生の傘寿を記念し、文部省の国際シンポジウム開催経費を受けて、京都大学の主催でシンポジウム形式で開かれた。

今回のシンポジウムには中国から杜石然・李迪・陳美東・陳久金・郭湖生・馬堪温・潘吉星の七人、その他の国からウンシユルト・セビン・何丙郁の三人（いずれも発表順、潘氏だけは客員教授として京都滞在中）の学者が招かれ、京都国際会館で左記のスケジュールで進められた。

十一月一日（日）

午前 開会の辞 藪内清

基調報告 山田慶児

午後 第一セッション・数理科学史研究の新しい展開(一)

第二セッション・東アジア科学史研究の課題と方向(一)

—自由討論・話題「天文曆学史の話題」

十一月二日（月）

午前 第三セッション・数理科学史研究の新しい展開(二)

午後 第四セッション・数理科学史研究の新しい展開(三)

第五セッション・東アジア科学史研究の課題と方向(二)

—自由討論・話題「イエズス会士系著訳書と東アジア」

十一月三日（火）

午前 第六セッション・数理科学史研究の新しい展開(四)

午後 第七セッション・生命科学史研究の新しい展開(一)

第八セッション・東アジア科学史研究の課題と方向(三)

—自由討論・話題「医薬学史の話題」

十一月四日（水）

午前 第九セッション・生命科学史研究の新しい展開(一)

午後 第十セッション・東アジア科学史研究の課題と方向(四)

第十一セッション・東アジア科学史研究の課題と方向(五)

—自由討論・話題「制度史研究への一提言」

閉会の辞 吉田光邦

参加者は約百名で、参加者には登録時に発表論文のコピーが渡された。この論文は後日印刷して出版される予定になっている。

第二・五・八・十一の四セッションは自由討論で、前述の話題について、それぞれ話題提供者の中山茂・吉田忠・大塚恭男・村上陽一郎の各氏から問題点が述べられ、それを中心にして出席者全員から活潑な意見が交換された。その他のセッションはいずれも二つの発表で構成され、先ず発表者が論文の要点を述べ、それに對して予め指定された討論者が意見を提出し、発表者がそれに答えたのちに、一般の参加者も含めて質疑応答がなされた。発表一題については一時間が当てられ、発表者の説明は五分程度にすることになってはいたが、通訳の問題（日本語または中国語、一部英語で発表され、それぞれ中国語または日本語に訳された）などもあつて二十分或いは三分に達することもあつた。質疑応答も盛んで、座長は一時間以内に納めるのに苦慮し、そのために十一月三日の夜、医学と天文学の二グループに分れて、積み残した話題を中心にして自由討論が行なわれた。両グループとも二十人程度が参加し、約二時間にわたつて討議がなされた。

第一・三・四・六の四セッションは天文と曆法が中心であつた。これはこの二つの事項が中国歴代王朝の重要な関心事であつたという特殊事情から、とくに多くの科学史上の問題を含んでいるからである。医学に関係のあつたのは第七・八・九・十の四セッションで、それぞれの座長と発表者、表題、討論者は左記の通りであつた。

第七セッション（座長・杉立義一）馬堪温「隋唐医学の主な成果と特質」（討論者・宮下三郎）赤堀昭「傷寒論の歴史」（石田秀実）

第八セッション（座長・酒井シヅ）

第九セッション（座長・フオルテ）潘吉星「日中医学交流史の中の周岐来」（山本徳子）ウンシユルト「革命を行う科学とパラダイム共存科学」（伊東俊太郎）

第十セッション（座長・里深文彦）セビン「古代から清朝までの科学と医学」（中山茂）何丙郁「最近中国に於ける科学史研究の動向と展望」（坂出祥伸）

なお革命を行う科学とは訳の都合上そうなつてしまつたのであつて、パラダイム共存に對して、それを許さない、つまり前代の説を否定してしまふ科学の意味である。

最初の日の十一月一日の夜には会館内で簡素ではあるが素晴らしい雰囲気のリセプションが開催され、十一月五日には外国人招聘者全員が参加して、色つき始めた高雄へのコンGRES・ツァーが実施された。

第七回静岡岡県医の史跡探訪会

舟木茂夫

昭和六十二年九月二十七日（日）開催

行事内容

第一部 浜松医大図書館・館藏品見学会

第二部 浜松市を中心とした医の史跡めぐり

第三部 懇親会